令和3年度 学校評価総括表　　奈良県立高取国際高等学校

教育目標	「さとく きよく ゆたかに たくましく」の校訓を指針とし、磨かれた知性と豊かな国際感覚を身につけ、実社会を生き抜く強い心と人を大切にするあたたかい心をあわせ持つ生徒の育成を目指す。	総合評価
運営方針	○自律した真の国際人を育て、地域に信頼され、愛される学校づくり。 ○常に理性を働かせ、異なるものの見方や考え方を認め合い、学び合い、心を磨き、生徒達が輝く学校づくり。	B
令和2年度の成果と課題	本年度の重点目標	
コロナ禍においても継承してきた本校の伝統である挨拶運動や奉仕活動などは、保護者並びに地域において一定の評価をいただいている。大学や地域との様々な連携を通し、本校教育の特色を今後も引き続き充実発展させるとともに、生徒の学びをより深める取組を一層推進する。夢の実現に邁進する笑顔が満ち溢れる学校となるよう努めたい。	夢に向かって一生懸命に努力する生徒、礼節を重んじ人を大切に思う生徒を育成する。 モチベーション高く何事にも前向きに取り組み、生涯学び続ける気概を持った生徒を育成する。 教職員一人一人が業務改善の意識を持ち、ワークライフバランスの実現を図るための手立てを講ずる。	

評価項目	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
総務	育友会、文化・体育後援会と緊密な連携を図り、学校行事への積極的な参加と活動の充実に取り組む。	育友会、文化・体育後援会の各役員の方々との連絡を密にし、学校行事が成功裏に終わるよう役員の方々の理解と協力を得ながら取り組んでいく。学校行事への育友会会員の方々の出席が増えるよう、保護者への案内が確実に届くよう工夫する。保護者アンケートにおける「育友会、文化・体育後援会の活動の情報が提供され、内容をご理解いただいていますか」という質問に対して「そう思う」「ややそう思う」の合計が70%以上でA、50%以上でB、30%以上でC、30%未満でD。	B	保護者アンケートの結果、「育友会・文化体育後援会の活動の情報が伝わっているか」という問いに、伝わっていると回答した方が58．2%であった。2年連続で育友会・文化体育後援会としての活動がほとんどできておらず、学級委員には集まっていただく機会さえなかった。また、学校行事が縮小されたり、生徒のみで行うことで、育友会会員の方に参加していただける機会がなかった。その中でも育友会文化部の「たばね」（2回発行）が発行され、今後とも活動の情報源としたい。	学校行事の運営方法にかなり影響されるが、可能な限り参加したい。引き続き役員と連絡を密に取り、育友会・文化体育後援会としての活動も状況に応じた対応をしていきたい。	コロナ禍においても、参加出来る行事や学校教育活動の支援を続けることが出来たと思われる。今後も状況に応じた取組を行われることを期待する。
教務	生徒の進路実現を図るために、学習指導の効果を高め、生徒の学力の定着と充実に努める。	・分かりやすく学習意欲が高まるような授業ができるように指導力を高める。そのため、授業研究を随時実施する。各人が年間に1回研究授業を行い、授業改善に努める。生徒対象アンケートで「授業の目標やポイントが分かりやすく、学ぶ意欲がわく授業ですか」の回答が75%以上でA、65%以上でB、55%以上でC、55%未満でD。 ・「TKタイム」が生徒の学力向上の一助になるように充実を図る。生徒対象アンケートで「TKタイムにしっかり取り組めましたか」の回答が75%以上でA、65%以上でB、55%以上でC、55%未満でD。 ・シラバスを生徒の学習の振り返りに役立たせる。生徒対象アンケートで「シラバスを用いて、自分の学習に対する取組を振り返り、役立てることができましたか」の回答が75%以上でA、65%以上でB、55%以上でC、55%未満でD。	B	・各人による研究授業は行事予定の変更などにより、ほとんど実施できなかった。生徒対象アンケートの「授業の目標やポイント」の項目は肯定的なものが85%近くあり、昨年の69．2%から上昇した。これはオンライン授業の際などに先生方が工夫して行われたためであると推察される。 ・TKタイム、シラバスに関する項目を立ててアンケートでは問わなかったが、「自宅での学習は毎日してますか」の問いには肯定的な答えが55%であった。これも昨年度の44．3%から上昇した。TKタイムやシラバスの取組が役にたっていると考えられる。	・来年度からTKタイムが毎日の実施になる。学期及び年間の計画を早めに提示し、より一層計画的な運用に努めることを目指す。 ・1年生向けのシラバスについては大幅に改訂した。観点別評価の確実な実施が求められることに伴い、どのような観点で評価するかがよりわかりやすく明示されるように改訂した。今後は常にそばに置いて参照させることで、シラバスの活用度をあげたい。	地域にある小学校や中学校との連携をより一層進めてもらいたい。また、近隣中学生を対象とした体験入学も、コロナ禍が一段落した後には実施を検討して欲しい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	登下校時や校内での自発的な挨拶の励行を促し、携帯電話の使用ルールとマナーの徹底をはかる。また登下校のマナー徹底と安全確保のため年間を通して週2回以上の登下校指導を実施する。学校のきまりを守る生活をさせるため、きめ細かい指導の徹底を図り、校内アンケート「学校の決まりを守っている」の回答を95%以上であればA、90%以上でB、85%以上でC、85%未満でD。時代のニーズに合わせて、保護者・生徒・教員の意見を取り入れながら、校則（生徒の指導に関する規定）の見直しの検討も行っていく。	A	校内アンケートの回答結果では97%の生徒が「学校の決まりを守っている」に対してそう思う、ややそう思うと回答した。しかし、校内の様子から考えると、制服の着こなしや頭髪・化粧などに関して、ルールを守れていない生徒の比率は、回答結果以上にいると実感する。虚偽の回答というよりも、自分がルールを大きく逸脱していなければ、それはルールを守っていると安易に考えている可能性が高いと推察される。	粘り強い指導が必要であり、その指導を効果的・継続的に行うためには、教員間での共通理解が最も大切であると考える。指導する教員と指導しない教員というばらつきがないように、年度当初より共通理解を更に徹底するよう努めたい。	様々な取組工夫を行う中で、その工夫に対応しきれない生徒も一定数いると思われる。そのような生徒も、充実した高校生活が送れる学校であり続けてもらいたい。また、子どもの人口減少が顕著な今、地域の子どもたちが入学を希望する学校に一掃するためにも、小中高が連携して学べる機会や場の設定を検討してもらいたい。
特別活動	学校行事や委員会活動、部活動への自主的・積極的な参加を通して生き生きとした学校生活を実現し、豊かで創造的な自己形成を図ることのできる生徒を育成する。	委員会活動を充実させるとともに、生徒の学校行事への自主的・積極的な参加を図る。また、デジタルサイネージを活用した部活動の紹介など、活性化を図り、加入生徒数の増加を図る。加入者数調査において加入率75%以上でA、65%以上でB、60%以上でC、60%未満でD。生徒アンケートの「学校行事に積極的に参加しているか」という質問に対して、「そう思う」「ややそう思う」の合計が75%以上でA、65%以上でB、60以上でC、60%未満でD。 ボランティア活動への積極的な参加を実践するとともに、地域主催の行事に積極的に参加する。地域からの協働奉仕活動などの依頼に対して、75%以上参加できればA、65%以上でB、60%以上でC、60%未満でD。	B	新型コロナ感染予防のため、新入生へのクラブ勧誘のビラ配布を中止にし、勧誘ビラを冊子にまとめ新入生に配布した。また、昨年度実施できなかった新入生オリエンテーションでの部活動紹介も感染対策を取りながら実施した。部活動の加入率は、4月末で61．6%で、昨年の59．6%より若干ではあるが上がった。特徴としては1年生の女子生徒の加入が少なく、反対に男子生徒は昨年度にくらべ10%増えた。12月末での加入率は58．9%となっており途中退部は少ない。7月に地域との協働事業である「飛鳥駅前活性化会議」をもち、「駅前ふれあいコンサート」の9月開催に向け、準備を進めてきたが、新型コロナの影響で今年度も中止にせざるを得なかった。また、そのほかの行事もは中止となり、参加することができなかった。生徒会や部活動生による10月の「ウグイス坂	クラブ勧誘ポスターや活動動画の作成など、1年生への部活動紹介をさらに工夫し、丁寧なクラブ勧誘を行う。今年度実施できなかった地域との協働事業について、新型コロナの感染状況を見ながら、できることを工夫していく。	部活動での中高連携方法を模索していって欲しい。
進路指導	社会に目を向け、自ら進路意識を高め、進路希望実現に向けて自ら情報収集をし、考え積極的な行動ができるように促す。	進路実現に向けて、学習講座・講演会・ガイダンス・相談会・保護者説明会等を充実させる。入試改革の情報等を伝達周知し、生徒・保護者への啓発に努める。保護者アンケートの「生徒や保護者に進路に関する情報がよく提供されていますか」という質問に対し「そう思う」「ややそう思う」の合計が75%以上でA、65%以上でB、60%以上でC、60未満%でD。	B	保護者アンケートで「進路に関する情報がよく提供されている」の項目で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせて74．2%であり、昨年度より1．7ポイント増加したとは言え目標には達しなかった。予定していた進路行事はほぼすべて実施できたが、規模を縮小したり実施方法を変更するなりの対応が必要であった。オンライン形式でもなんとか実施できたが、当初の計画より成果があったとは言いがたい。ここ数年で導入したキャリア・パスポートやスタディサプリも活用方法をさらに深める必要がある。	刻々と変化する入試状況を的確に捉え、それぞれの学年に応じたレベルで適時発信していく。次年度1年生は新しい学習指導要領並びに教育課程に移行することを考慮し、各教科と連携して2年後の進路実現に繋がる情報を提供する。また、3年生には早い段階で進路希望を把握し、より有効な指導に繋げたい。	
人権教育	性同一性障害をはじめとするセクシャルマイノリティなど、新しい人権課題に積極的にも取り組む。	全校人権講演会、人権作文発表会などの人権教育に関する学校行事や人権ホームルームなどのいっそうの充実をめざす。特に新しい人権課題のひとつであるセクシャルマイノリティの問題や、新型コロナウイルスに関する偏見や差別意識と人権課題を通したネットリテラシーを積極的に取り上げる。学年末の生徒対象アンケートで、「高校に入っていろいろなことを学び、中学生のときよりも人権意識が高くなったと思いますか。」という質問に対して、「そう思う」「ややそう思う」の合計が80%を超えることを一つの目安として取り組む。90%以上でA、80%以上でB、70%以上でC、70%未満でDとする。	A	保護者アンケートでは、「命や人権を大切にした教育が適切に行われている」が前年比+6．0ポイント、「違いを認め合う姿勢を育てる指導が適切に行われている」が同+8．1ポイントと、いずれも大きく高評価をいただいた。生徒アンケートでは、人権作文発表会、人権HRや「人権を確かめあう日」の取り組みなどの調査項目がなかったが、それぞれの感想文や、人権作文の内容から、多岐にわたる人権課題に関心を持ち、前向きに向き合おうとする姿勢がうかがえる。コロナ禍により、命と人権に関わる関心が高まっていることは好機ととらえ、引き続き人権諸課題にかかわる地道な取り組みで人権意識の向上をはかりたい。	新型コロナ感染拡大防止のため、明日香養護学校とはオンライン交流しかできなかったが回数を増やすことができた。視覚障害者老人ホームの慈母園との交流は全くできなかった。障害者の人権、セクシャルマイノリティの人権、在日外国人の人権を重点課題とし、いじめやネット中傷問題、部落差別など人権諸課題への意識向上に努め、コロナ下の人権尊重・共生社会構築を加味した取り組みを進めていきたい。	異文化体験発表会の内容やそのレベルの高さに感心している。今後は、多文化共生社会の一層の進展とともに、どのような学びを本校で実践するかが大いに楽しみである。
文化図書	文化的行事への積極的な参加と、読書に親しむことで、実社会を生き抜く強いカや、豊かな自己実現を図る態度を養う。また、身近な伝統文化に親しむことで、真の国際人たる自覚を持たせる。	文化祭への自発的・自主的な参加を促す。読書会・ビブリオバトルやかるた大会などの行事を充実させ、文化に対する興味・関心を高める。朝の読書や図書だよりの発行を通して読書習慣を身につけさせる。文化祭・かるた大会・朝の読書などのアンケート結果で全体の満足度が90%以上をA、75%以上をB、60%以上をC、60%未満をD。また、生徒たちに図書室を積極的に利用できるよう、情報発信や働きかけを行う。	A	新型コロナの影響を受け、すべての行事が延期や変更、中止となった。文化祭は昨年と同じく、全体縮賞は実施できず、時期も9月から11月に延期になったが、その結果、時間的に余裕ができたことや気候のいい時期にできたことは良かったこともあり、95%以上の生徒が満足していた。ビブリオバトルは11月実施予定が1月になり、3年生が参加困難な時期となった。かるた大会はコロナ禍により実施は出来なかった。読書感想文集は、1年という時間をかけて、校内選考、応募、文集作成を行った。図書室からの情報提供等も図書館便りやサイレージの利用をして毎月発信できた。朝の読書は、時差登校などによって影響を受けたが、来年度は回数も増やし	新型コロナ対策とその影響による変更を考慮しながら、その時々にできる範囲内において様々な行事を行うよう努めたい。また、行事内容の見直しや精選を行うことで、ゆとりのある企画をしていきたい。	
健康教育	生涯にわたって運動をするカを身につけさせ、健康と安全を維持できる力を育成する。 自己の健康に興味関心を持ち、生涯にわたり健康を保持増進できる実践力を身につける。	運動に主体的に取り組むことにより、自らの健康管理ができる能力を育てる。意欲を高める学校行事になるよう体育大会に工夫を加え、大会後のアンケートにおいて、不参加率が全体の5%未満A、10%未満はB、15%未満はC、15%以上はDとする。（なお、ケガや体調不良等により参加できない生徒については考慮する） 自己の健康に興味関心を持ち、健康安全に学校生活および人生を送る実践力をつけるため、生徒定期健康診断での結果、受診が必要な全ての生徒の受診率の向上を目指す。受診率が40%以上でA、30%以上でB、20%以上でC、20%未満でDとする。	B	・新型コロナウイルス感染拡大予防のため、体育大会は時差登校で学年別実施とした。種目も厳選し、規制のなかの大会となったが、生徒は元気よく楽しんでいた。晴天にも恵まれ大きなけがもなく、不参加率も5%以内におさえられた。 ・各種検診も、新型コロナウイルス感染拡大予防措置を施しながらの実施となった。 昨年度コロナのために落ち込んだ受診率であるが、今年度も向上したものの25%となり、以前のような率までには届かなかった。	生徒の健康や安全を保ち、さらに向上を目指すためにも、来年度も新型コロナウイルス感染の状況を注視し、さまざまな対策を施しながら、活動を計画し実施していく必要がある。	
国際教育	様々な文化に接することにより、自国（自分）以外の他者の価値観を受入れ認め合うことができる生徒の育成を目指す。また、地域や大学と連携することにより本校の国際教育を推進するとともに地域での信頼を得る。	海外との往来が困難ななか、生徒が異文化に関わる機会を、オンラインを中心に昨年度より増やす。具体的には、「短期・長期の訪日団および留学生の受入れ件数」（昨年度3件）、「アメリカ姉妹校短期派遣研修希望者数（前回43名）、長期派遣留学参加者数（昨年度1件）」「オンライン交流の件数」（昨年度5件）を増やす。また、「アメリカ姉妹校短期派遣研修」が中止された場合、それに代わる行事、プログラムを企画・実施する。教育企画部と連携し、地域や大学と連携するプログラムを企画・実施する。上記方策の結果、「学校評価委員会アンケート（生徒用）」の項目「学校生活を通じて広い視野を持ち、異文化を理解し、これを尊重する態度が身についたと思いますか」の「そう思う」と「ややそう思う」の合計の割合が、昨年度（79．7%）を超えればA、ほぼ同じ（79～75%）であればB、70～74%未満であればC、70%未	A	「グローバルセミナー」はオンライン開催とし、業者や奈良韓国教育院の方による詳しい説明の後、希望者への個人面接もあり生徒にとり有益であった。「異文化体験発表会」は昨年同様、各教室での動画視聴とした。来校中の留学生の発表もあり、より深い内容となった。「オンライン交流」については、ノウハウが積み上がってきたこともあり、比較的スムーズに実施できてきている。時差の大きい米仏姉妹校とはカード、ビデオの交換に止まっており、さらに深い交流が望まれる。派遣研修の代替プログラム「国際交流サマーキャンプ」は教育企画部との協働企画であったが、大学・地域とも連携でき、参加者の満足度も非常に高かった。現況のように厳しいコロナ禍ではあるが、2年生の生徒が2名アメリカ長期派遣留学	昨年度同様、直接海外との往来が依然望めない中、「オンライン交流」を推進しつつ、派遣代替プログラムとして、国内やオンラインでの（宿泊）研修も視野に入れる必要性がでてきている。その際の費用をできるだけ抑えるため、各団体からの支援金等を積極的に活用したい。また、「人権を確かめあう日」の資料を人権教育部と共同作成したように、他の分掌と連携して国際教育に対する生徒の意識をさらに高める努力も必要である。	夏期に実施した「国際交流サマーキャンプ」は素晴らしい取組だった。実際に現地へ行くことや迎えれることが叶わない今、出来ることの最善を模索した取組に感謝する。今後、感染状況が改善された後にも同様の取組工夫を期待したい。
教育企画	地域連携・高大連携を強化しながら、協働学習の確立を目指す。加えて、ICT教育を取り入れながら、より良い学習活動ができるようにする。公式HPや公式Instagramを活用し、本校の魅力を積極的に発信する。	・高取町・明日香村との地域連携においては、「探究なら」や「あすか学」といった授業を中心に、連携をさらに深め、お互いの人材を活用しながら、生徒にとって地域の魅力を感じとれるよう協働していく。また、生徒会活動における地域へのボランティア活動も協力しながら進めていく。高大連携においては、英語や専門外国語を中心に連携を深め、生徒の学習意欲の更なる向上を目指して、取り組んでいく。生徒対象のアンケート結果において、全体の満足度が90%以上をA、75%以上をB、60%以上をC、60%未満をDとする。 ・コロナ禍の中、教育活動が絶えず行えるように、GIGAスクール構想のもと、ICT教育の更なる強化に向けて、環境整備をしっかりと行い、オンラインでも教育ができる体制の構築を進めていく。生徒対象のアンケート結果において、全体の満足度が90%以上をA、75%以上をB、60%以上をC、60%未満をDとする。 ・公式HPや公式Instagramの更新においては、リアルタイム発信を目指し、可能な限りスピーディーに情報発信を行う。また、学校案内パンフレットにおいても、公式HPや公式Instagramのリンクを掲載しながら、中学生やその保護者に対しても、周知していただけるように作成する。生徒対象のアンケート結果において、HPやInstagramの満足度が、90%以上をA、75%以上をB、60%以上をC、60%未満をDとする。	B	・コロナ禍のため、活動に制限はかかってしまったが、オンラインを駆使しながらできる限りの取組を行うことができた。新たに、国際教育部と連携しながら、国際交流サマーキャンプの実施や、たかむら小学校との外国語交流活動の実施をした。また、天理大学との高大連携の取り組みとして、英会話の授業支援も実施していただいた。次年度も、できることから進めていき、本校生徒の学習意欲がさらに湧く取り組みを実施していきたい。 ・ハイフレックス授業を展開できる環境整備をしっかりと行い、教育活動がとまらない体制を構築することができた。Classroom・ロイロノート等を有効活用しながら、ICT教育の更なる向上を目指していきたい。 ・公式HPにかえて、新たに公式Instagramを開設し、本校の情報を発信をすることができた。しかしながら、公式Instagramの活用頻度は少なく、保護者・生徒への周知等も不十分なため、活用の促進を目指すとともに、生徒のリアルな声も発信していければと考えている。	・すべての分掌・教科との連携をさらに密にしながら、協力体制をしっかり築いていく。 ・地域連携・高大連携においては、先方との連絡を密にとり、双方の教育効果が向上するプログラムを設定する。 ・BYODによる学習方法においては、使用規定を設定するとともに、生徒・教職員の意識の変化も必要と考える。	中学3年生向けをより意識した学校案内誌作りに共感する。作成された案内誌の配布対象をより意識した改訂は素晴らしい。なお、今後は学校の取組をPRする様々な手段を一層工夫することで、発信力の向上を目指してもらいたい。